

ふれあいのまち 谷津・奏の杜

いそしぎ

令和7年1月
第52号
 発行 社会福祉協議会
 谷津支部
 事務局 谷津4-7-10
 谷津公民館内
 電話・FAX 453-8700

谷津の鎮守の神様



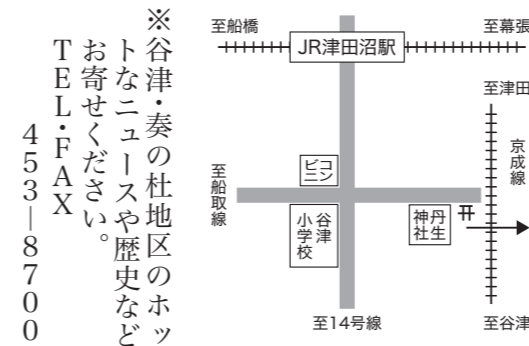
JR津田沼駅を背に南へ、谷津小学校正門側の交差点を左に曲がり、緩やかな坂を下って行くと丹生神社があります。

丹生神社の御祭神は丹生都比売神(女神)で、和歌山県伊都郡かつらぎ町に鎮座しています。

丹生都比売神社は一の宮から四の宮まであり、江戸時代、山伏のようなかたが一の宮の御祭神の分霊の御神体を持って村々を歩き、1654年(承応4年)に谷津の地にまつられました。

御神徳は諸々の災いを祓い除き、谷津の守り神として、今日に至っています。また江戸時代の末より伊邪那美尊が併設されています。

本殿は1812年(文化8年)の建設で200年を経ており、たくさん木の彫刻が施されていて当時の宮大工の技術の高さがうかがえます。



明るく笑顔あふれる未来を

『自立力』『地域力』を高める

能登半島地方は地震・大雨の二重被災となり、復興も進まず家族離散・避難所での新しい年を迎えている事を思うと、何事もなく家族揃って新しい年を迎えられた事に感謝です。

時と共に自然環境・社会環境が変化する事を認識する必要があると感じます。特に社会の変化は百歳以上の高齢者10万人弱、新生児誕生が80万人割れと「少子高齢化」が進み、将来に向けて大きな課題です。

『自立力』『地域力』を高めることを我々の地域福祉事業を通じて、地域の皆様と考えて実行して行きたいと思えます。

今年もご理解・ご支援を宜しくお願い申し上げます。



実【巳】のり多い一年でありますように・・・

谷津支部では、80歳以上の一人暮らしで見守りが必要な方に、年8回食事サービスを行っています。

70食程のお弁当は、地域の二つのボランティアグループが季節の食材を取り入れ、彩り・栄養バランスなどを考えながら献立をつくり前日から準備し、当日は朝早くから調理して下さっています。

お弁当には、地域の幼稚園・保育所・こども園の協力を得て、園児たちの可愛い作品や小学校の児童からのお手紙を添えて、各担当の民生委員の方々の協力により温かいうちにお届けしています。

食事サービスは、地域の皆様のお力で成り立ち30年を超える事業となりました。

これからも地域福祉の一環として、ますます皆様の笑顔があふれるよう続けていければ、私たちにとってもうれしいです。

食事サービス30年・・・

編集後記

「伝わる」を大切に、いろいろと工夫や検討を重ね、力を合わせて作り上げました。

取材を通じて地域で活動される皆さんの頑張っている姿に触れ、勉強になり活力もいただきました。

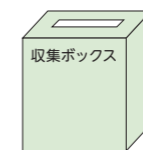
ご協力をいただいた皆様ありがとうございました。



“書き損じのはがき”ありませんか？

書き損じの未使用はがきのご寄付をお願いしています。ご協力お願いします。

- ・古くなったり、汚れてしまったはがき
- ・多く刷り、余ってしまったはがき など



谷津公民館内に収集ボックスを設けております。

(TEL・FAX 453-8700)

おめでとうございます

令和6年度社会福祉功労者表彰式において、長年にわたり谷津支部の活動にご尽力いただきました3名の方々が、習志野市社会福祉協議会より表彰されました。

感謝の部

松田みよの 様
 水澤 豊子 様
 田中みち子 様

社会福祉協議会 谷津支部

支部長 赤城 裕

食事サービス事業部

部長 白石 美砂子

谷津支部地域サロンの活動



『また会える』を目標に…

『アンダンテ奏の杜』では、9月9日谷津在住の防災士林さん講師を迎え、日常の暮らしを重点に防災対策について講演会を行いました。



2011年3月「東日本大震災」2024年1月「能登半島地震」同年8月に宮崎県で震度6弱の地震では、南海トラフ巨大地震注意報が出されたこともあり、生活に身近な対策が大切との思いから、この度の開催となっております。

講師から冒頭に「地震では死なない！ 自助・共・生きることを第一に、また会える約束をしましょう」で始まりました。ライフラインの対策、土嚢の効果的な作り方、消火器の使い方、煙からの逃げ方、家具の転倒防止や寝室・部屋・トイレでの安全対策、非常時に備えておく物（水・食糧等3日分）、台風と地震が同時に起きた場合の対応、避難時の心構え等生活に密着した内容になっていました。南海トラフ地震は富士山の噴火につながり、被害が広範囲で大きなものになる予測について話が及び、約20名の参加者は真剣に耳を傾けていました。地域サロンの西山代表は「生活の身近なところを視点にした防災講演で参加者は、分かりやすく大変参考になったと思います」と話され、有意義な講演会になりました。

『ここにこーろーズカフェ』では、年4回、季節に合わせた工作やゲーム、時にはゲストをお迎えしての「ばか面おどり」や「コンサート」等を楽しんでいただいています。なかでも一番は、お茶を飲みながらのおしゃべりタイムでしょうか…。時間の経つのも忘れてしまえます。スタッフも皆さんの『笑顔』に元気をもらっています。



習志野きらっと 音頭輪踊りで躍動

10月13日は好天で絶好の祭り日和。音頭輪踊りへの参加は、9団体349人で、多くの観衆が見守る中、谷津連合町会23名のメンバーは、お馴染みの青の法被で練習の成果を發揮？会場を盛り上げ、存在感をアピールしました。



向山小学校 50周年

コブシの花をシンボルに創立から半世紀

昭和50年の開校時、谷津小学校の北校舎を使用し、児童数は1年生から4年生493名でスタートしました。昭和51年4月に現在の校舎に移り昭和60年に最大の927名、平成18年には最小の182名を経て、現在では326名となっています。単立った「こぶしっ子」は3000名を超えました。これからも「子どもたちの未来のために」開かれた学校づくりに向けて歩み続けることでしょう。



撮影:ユニオン・エンタープライズ株式会社

周年事業には、創立50周年式典や記念誌の発行がありますが、11月2日には特別に企画された「創立50周年記念まつり」が行われました。これからの地域の発展や活性化に繋げていきたいとの考えから、地域の方々を中心にスポーツ体験・駄菓子や農産物等の直売・射的・スパーボールすくい等のブースが設けられ、校舎前道路にはキッチンカーも軒を並べていました。また、舞台ではマジックショーがあり、児童が参加する場面も見られ会場は盛り上がっていました。メインイベントは「学校かくれんぼ・先生を探せ」です。児童は、制限時間20分ぎりぎりで見つかる事ができ、大きな歓声に包まれていました。児童・先生・保護者のもとより地域の方々も参加して、会場は大変な賑わいで記念事業にふさわしいものとなりました。

『伝統は温かいつながり』にあった！

奥秋 裕司 校長

向山小学校の印象について 子ども達が温かい。特に縦の繋がりが強く、これが伝統だと思います。

50周年を迎えての感想は

子どもたちに大切にして欲しいことは、過去からの繋がりで今があるので、簡単な歴史を知り、これまでに積み上げて来た地域の方々に感謝することです。自分たちが学校をつくって行く気概を高めたいと思います。

今後の抱負について

今までの伝統である「縦の繋がりを大切に、学校のスロガンに『踏み出せ未来へ こぶしっ子』があり、子ども達に新たな取り組みについて勇気を持って踏み出していくことを願っています。

三代川 誠一 50周年事業実行委員長【昭和57年卒業】

50周年を迎えての感想は 全校で児童180名の頃学校がなくなるといふような話も聞いたが、50年の長い歴史を続けてきました。これからは是非歴史を繋げていって欲しいです。

現在の児童に送る言葉はありますか

本当に人を思いやる子どもたちなので、そのまま育って行って欲しいです。

【昭和58年卒業】・【平成8年卒業】

小学校生活で一番の思い出は

・校庭に咲く白いコブシの花シンボルツリーが浮かんできます。コブシの花が出てくる校歌も好きで、今でも忘れていません。・自然があつて、その中でよく遊んでいた。また、生徒数が少なく学年を越えて仲良くでき、先生とも深いつながりが持てました。